（様式11）

令和　8　年　1　月　26　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日（火）　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	澁美　誠

（出張の顛末）

私がやらまいか交流会へ参加した目的の中に、全国高等学校選抜ローイング大会を第1回から開催し、今年3月には第37回大会を迎える、選手にとってのボートの聖地となっている、天竜ボート場に関わる事があり、交流会の中で、関係者へのご挨拶を行いました。天竜ボート場は、電源開発株式会社が、1977年に建設、完成した船明ダム湖の湖面を利用した、B級2000mの日本有数のボート場で、全国高等学校選抜ローイング大会の会場となっている他、インターハイや国民体育大会の漕艇競技会場として、使用されています。今回、事業主体である電源開発株式会社本社の[redacted]氏、[redacted]氏とお会いし、天竜ボート場の維持管理・運営に向けた、引き続きのご理解、ご協力、今後の本市と電源開発相互の信頼関係の更なる充実について、意見交換を致しました。更に、本市財務部長であった石切山真孝氏は、デジタル庁統括官付参事官付企画官となり、国土交通省浜松河川国道事務所長であった田中甲佳氏は、水管理・国土保全局治水課流域治水企画官となっていました他、本市に関係した各省庁の皆様とお会いしました。国の状況や情報を得る機会に繋げたいと思います。また、天竜区に関わる本市ブースも多く、東京在住の方々に中山間地域の元気と情熱が伝わり、共に取り組むきっかけが芽生える事になれば、大きな意義を持ちます。昨年も、会場でお会いした、春野町勝坂神楽保存会のお手伝いをしてきた、NPO 法人わたぼうしグランドデザインの皆様とも再会、新メンバーの[redacted]、[redacted]とは名刺の交換をし、中山間地域の伝統や文化の継承への関わりを伝えた。大変貴重な交流会であり、引き続き、参加したいと思います。

（備考）

鳥井 康彦

浜松やらまいか交流会　視察報告書
2026年1月20日(火)
ANAインターコンチネンタルホテル

2026年1月20日、ANAインターコンチネンタルホテルにおいて開催された「浜松やらまいか交流会」に参加し、事業の内容および効果等について。

本交流会は、浜松にゆかりのある方々が一堂に会し、地域の魅力を再認識するとともに、人的ネットワークの構築と相互連携の強化を図ることを目的として継続的に開催されているものである。本年も多くの参加者を得て、会場は終始活気に満ち、浜松の持つ底力と将来性を感じさせる催しとなっていた。

会場においては、地元産の食材を活用した多彩な料理や飲み物が提供され、来場者に対する浜松の食文化の発信、さらには地域産業のPRの場として大きな役割を果たしていた。提供方法や演出にも工夫が見られ、参加者が楽しみながら地元の魅力に触れられる構成となっており、地域ブランド力向上の観点からも有効であると感じられた。

また、地元出身者をはじめ、芸能、文化、スポーツなど各分野で活躍している関係者が多数参加しており、直接意見交換や情報共有を行うことができたことは大きな成果である。それぞれの立場から浜松への思いや今後の展望が語られ、郷土に対する強い愛着と貢献意欲を共有できたことは、参加者相互の結び付きをより強固なものにしたと考えられる。

特に、普段は接点を持つ機会の少ない異業種間、世代間の交流が自然な形で生まれていた点は注目に値する。こうした場から新たな協働や取り組みが芽生えることにより、地域経済の活性化や文化振興へと波及していく可能性に期待される。

本交流会は単なる親睦の機会にとどまらず、浜松の魅力を内外へ広く発信し、応援団を増やしていくための重要な基盤づくりの場であると強く認識した。人と人とのつながりこそが地域の発展を支える原動力であり、その意味において本事業の継続的な開催は極めて意義深いと思われた。

今後においては、参加者層のさらなる拡大や若い世代の参画促進、首都圏等との連携強化などを図ることにより、交流の輪を一層広げていくことが望まれる。この取り組みを積み重ねていくことが、浜松の持続的な発展とにぎわいの創出につながるものと大いに期待される交流会であった。

（様式11）

令和　8　年　1　月　21，日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20，日　(火)　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	戸田　誠

（出張の顛末）

市長市政報告は、主に20周年記念事業についての報告であり、特に、万博で浜松のHと題して、ヤマハ、カワイ、ローランドの3社で、音楽の街浜松を訴えることができた。しかし、ポテンシャルはあるがまだまだ、活かしきれていないので、今後どう活かしていくかが課題であり、取り組みをしっかりとしていきたいと報告があり、その通りであると改めて認識でき良かった。

交流会では、旧北区から三ヶ日みかん、峯野牛、とんきいの豚肉が紹介されて、知名度アップに繋がればという思いのなか、峯野牛の[redacted]さん、とんきいの[redacted]さんとも、初めて「やらまいか交流会」に参加してくれたことが良かったと感じられた。また、昨年まで参加して頂いていた川名のひよんどりの参加が無かったのが残念で、無形文化財の紹介ブースがあると良いなと感じた。

また、たまたま、浜松を出かける前に購入をしていた、新発売の「うなぎいもクリームパン」の紹介もあり、これから浜松を代表する商品になっていけば良いなと感じた。

各ブースとも、ポテンシャルの高いものの紹介がされていたので、今後の知名度がアップすることを期待する会となった。

（備考）

（様式11）

令和　8　年　1　月　26　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日　(火)　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	倉田清一

（出張の顛末）

・1月20日(火)18時00分から、ANAインターコンチネンタルホテル東京において懇会に開催され、先ず18時から第一部、中野市長による「市政報告」が行われた。
昨年2025年は、天竜川・浜名湖地域の12市町村が合併し、「新浜松市」が誕生して20年にあたり、浜松市の状況や魅力、20周年記念事業等の説明がされた。

・第2部「懇親会」においては、中野市長と斉藤会頭の挨拶に続き、「新任やらまいか大使委嘱式」、鏡割りが行われ、懇親会がスタートした。
新やらまいか大使や多くの参加者と意見交換を行うとともに、鰻や峯野牛を頂く中で、[redacted]氏とは浜松パワーフード生かした更なる取組みについての意見交換を行った。
また、総務省自治財政局財政課長の神門純一氏、並びに元静岡副知事の[redacted]氏と思い出話や浜松市のまちづくりについて意見交換を行うとともに、土木部のブースを訪れ、頑張ってPRしている職員を慰労した。
今年も有意義な「やらまいか交流会」となった。

（新任やらまいか大使）

① 弓桁朱琴さん　：市出身でモーニング娘
② 向山信治さん　：京都大学基礎物理学研究所教授
③ 向山義治さん　：東京電機大学教授
④ 前島和弘さん　：市出身で上智大学教授
⑤ H&Aさん　：4人組の浜松ご当地アイドル
⑥ カール・ヤイトラーさん　：オーストラリア出身のバストロンボーン奏者

令和８年１月２６日提出

会派名　自由民主党浜松
代表者　平野岳子　様

報告書

出張年月日	令和８年１月２０日
出張先	東京都港区
出張の理由	浜松やらまいか交流会参加者との意見交換のため
出張者 氏名	加茂　俊武

（出張の顛末）

１月２０日(火)18時30分から、ANAインターコンチネンタルホテル東京において開催された、浜松やらまいか交流会に参加し、交流会のあり方について考えるとともに参加者と意見交換等を行った。

【浜松やらまいか交流会】

●ブース出展、料理について

市担当課のブースと民間企業ブースの２種類がある。毎年、出展頂いている民間企業の方々は、浜松市の為に、様々な尽力を頂いていることが、よく理解できた。特に、本年は、うなぎの「でしこ」が料理テーブルに並び、長蛇の列ができるほど、人気であった。浜松うなぎは、知名度が高い為、「でしこ」が認知されると共に、他ブランドとの差別化を図ることで、かなりの期待がもてることを確信した。

また、浜松発アイドル「H&A」のミニライブが催され、華やかさが増し、通常の交流会より盛り上がりをみせていた。いい試みである。

●やらまいか大使について

毎年、新たに任命された方のみの紹介と挨拶であるが、登壇した全員を紹介する機会を設けるべきである。来場者の皆さんに、知ってもらうことで、シビックプライドの醸成と大使のモチベーションにつながるであろう。時間制限もあるだろうが、一考が必要である。

●参加者との意見交換

・２７歳　ＩＴ系企業勤務

浜松のイメージは、製造業であり、ＩＴ企業を探す時に選択肢として考えれなかった。

現在、東京在住であるが、リモートワークが可能な為、帰郷を検討している。ただ、浜松の公共交通は、バス中心であり、まちなかの賑わいもさることながら、拠点となる「まち」が少ない為、車が必要のない東京は、やはり、生活しやすいと感じる。

産業部長との懇談でインドＩＴ最大手企業との提携について話をした。浜松の未来にとって大変、大きなことであり、若者の就職先の選択においても、浜松が選ばれるような効果を期待する。

・２５歳　Ｍ＆Ａ系企業勤務

最近、浜松で仕事をする機会が多い。優良企業が数多くある。次の経営者がいない企業も多く存在している。国の事業承継の補助金は、ハードルが高かったり、採択に時間がかかるなどの課題がある。地方自治体が使いやすい制度を考えると助かる。浜松にとっても税収確保などメリットはあると思う。

（様式11）

令和　8　年　1　月　26　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日　(火)　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	平野　岳子

（出張の顛末）

浜松やらまいか交流会に出席しました。

第１部は中野市長による市政報告会、第２部は懇親会で意見交換会が開催され、新たな「浜松やらまいか大使」の紹介など、浜松の魅力と未来への期待が感じられるひとときとなりました。

この日、特に心に残った方は、浜松市出身で元宝塚歌劇団男役、そして浜松やらまいか大使でもある「天玲美音さん」。

実は、この２日前にアクトシティ浜松にてミュージカル「白井鐵造物語～犬居の風～」を鑑賞した際、スペシャルライブで圧巻の歌声を披露され、会場を魅了されていました。その感動が冷めやらぬ中で直接お会いでき、記念写真もご一緒頂きました。

浜松にゆかりある素晴らしい芸術文化が、より多くの市民の皆様に届き、身近に触れていただける機会が広がることを願っている・・そんな思いをお伝えしたところ、大変喜んでくださいました。

また、会場には浜松ゆかりの美味しい職も並び、食文化の魅力も発信される温かな交流の場となりました。

浜松には、誇るべき文化・芸術・食など、数多くの地域資源があります。こうした魅力がさらに多くの市内外の方々に知られ、次の世代へと繋がっていくことを願います。

＜改善点＞

新たに就任された「浜松やらまいか」の方の御紹介はあるものの、ご参加された方々は登壇のみですので、もう少し配慮すべきではと感じます。マイクリレーまたはスクリーンでの紹介等、工夫いただきたい。

（様式11）

令和　8　年　1　月　26　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日（火）　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区ANAインターコンチネンタル東京
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	鈴木　里江子

（出張の顛末）

駐日インド大使、駐日インドネシア共和国臨時代理大使、駐日ポーランド共和国特命全権大使、台北駐日経済文化代表処横浜分処処長をはじめとして、浜松市やらまいか大使、各省庁・企業関係者や浜松サポーターズクラブの皆様との交流・意見交換を行った。

新任やらまいか大使は、多くの方とともに交流ができた。向山ご兄弟のお二人とお話しできなかったのは残念であった。

東京での開催は、会場費や飲食費等の大半が都内で消費され、浜松市への直接的な経済波及効果が限定的であると感じた。また、参加者の多くが市内からの移動者である実態を鑑みると、多額の予算を市外で投じることの妥当性を再考すべきである。

「人的交流の効率性」である。当日対話した方の多くが浜松在住者であった事実は、本会が「地元住民同士の再確認」に留まっている側面が垣間見え、これでは東京で開催する本来のメリットが薄いと感じた。

今後は開催地を浜松市へ移し、地元の食材や会場を活用することで、ダイレクトに市内の活性化へ繋げるというのも一案ではないかと感じた。

「浜松の魅力を発信する」のであれば、ゲストに浜松の地を踏んでもらい、現地の空気感の中で交流を図る方が、より深い本市の理解と愛着形成に寄与するのではないかと考える。

（備考）

日程変更により、委員会視察前夜の開催となり、大変時間管理が難しかった。

（様式 10）

令和　8年　1月21日提出

（あて先）　会派名　自由民主党浜松
代表者　平野　岳子

報　告　書

出張年月日	令和　8年　1月20日　～　令和　8年　1月20日
出　張　先	東京都港区赤坂　ANAインターコンチネンタルホテル東京
出張の理由	浜松やらまいか交流会参加者との意見交換
出　張　者 氏　　名	小野田　康弘

（出張の顛末）

1月20日　午後6時から、ANAインターコンチネンタルホテル東京において開催された「浜松やらまいか交流会」において、参加者と意見交換等をおこなった。主なやり取りは、下記のとおり報告します。

【浜松やらまいか交流会】

○ＰＲブースの確認

・今回は、20のブースがありそれぞれPR方法を工夫していた。農林水産課もJAとぴあは浜松やJA三ケ日の農産物やパワーフードを紹介していたが、JAの職員も参加していただいた方がより良いPRができたのではないかと感じた。

○参加者からの意見聴取

・日本貿易振興機構 [redacted] 氏 [redacted] 氏 [redacted] 氏

[redacted]氏は、インド担当とのことで今後のインド展開と本市企業の進出に向けた意見をいただいた。

・国土交通省　田中 里佳 氏　（前浜松河川国道事務所所長）

本市の天竜川の流域治水について、意見をいただいた。

（様式10）

・ＮＰＯ法人わたぼうしグランドデザイン [redacted]氏 [redacted]氏

学生主体で構成され地域課題に取り組んでいるＮＰＯ法人で活動しているお二人に、事業内容等を伺った。

【所管】

・ＰＲブースは、大変充実したものになってきたと感じた。20ブースの内、9ブースが民間で出していた。春華堂さんもＰＲ冊子が充実しており、浜松の魅力を出していた。また、市関係のＰＲブースもそれぞれ工夫されていたと感じた。ただ、農業水産課名地は、市職員だけでブースを運営するのではなく、関係する企業の方を参加させることで、よりよいＰＲブースになるのではないかと感じた。

・1月13日にインドの日本貿易振興機構アーメダバード事務所を訪問し、[redacted]よりインドの状況を聞いたばかりであった。[redacted]氏と本市企業の進出と課題について意見交換を行い、今後の協力体制も確認した。本市当局も積極的にインド関連事業を行っているので、情報収集をしっかり行いサポートをする必要があると感じた。

・前浜松河川国道事務所長であった田中氏は、天竜川水系の流域治水に関心を持たれており、天竜の調査も視野に入れているとのことであった。全国的にも異常気象による災害が多発している中で、本市と国とのパイプをしっかりしなければならない。そうした中で、本市をよく知る田中氏とのパイプは非常に大切であると感じた。

・わたぼうしグランドデザインのお二人は、ＮＰＯ法人の理事に就任したばかりのやる気に満ちた青年であった。春野町の勝坂神楽に参加しているとのことであった。若い世代が、伝統文化を継承していくことや興味を持っていただけることは、大変うれしいことである。意見交換している中で、我々議員も中山間地域の課題解決や伝統文化の継承等、様々な課題を当局とともにさらに取り組んでいかなければいけないと感じた。

（備考）

（様式11）

令和　8　年　1　月　26　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日（火）　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	神間郁子

（出張の顛末）

ANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催された、今年度のやらまいか交流会に参加した。第一部は１８：００から市長による市政報告、第二部は１８：３０から立食形式の懇親会が開催された。

市内外の関係人口の交流の場として、毎年開催されているが、浜松の勢いを肌で感じることのできる会となった。参加者からも、「浜松すごいね」との意見をいただいた。

ただ、「やらまいか大使制度」については、この制度開始から20年が経過し、やらまいか大使の活用について再検討の時期に来ていると感じた。新しいやらまいか大使任命があったが、これまでの大使がどのように活動しているのか、諮ることはできず、大使の名簿だけが増えていく。予算的にも、規模は小さく、やらまいか大使の名刺を１００枚配るだけなので、当局にもあせりは見られない。対外的にどのような効果を求めているのかまた実際にその効果の検証が必要である。

そうした中で、新・やらまいか大使の H&A のステージが催され、交流会の工夫、新しさも感じられた。

浜松の食材についても、参加者が喜んでいる様子がうかがえた。浜松に関する配布物については、コンベンションガイド、出店者の紹介、また花フェスタの案内や、UIJ ターンを促すための、労働政策課のチラシも含まれており充実したものであった。

交流会のアンケートもとっているようなので、今後の在り方を検証するためにも結果に注目したい。

（備考）名刺交換

デジタル庁　統括官付参事官付企画官　石切山真孝氏

独立行政法人　日本貿易振興機構　国家資格キャリアコンサルタント [redacted]氏

静岡県 ICOI アンバサダー　天玲美音氏

（様式11）

令和 8 年 1 月 20 日提出

（あて先） 会派名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者 会長 平野 岳子 様

報 告 書

出張年月日	令和 8 年 1 月 20 日 (水) 18：00～20：30
出 張 先	東京都港区 ANAインターコンチネンタルホテル浜松
出張の理由	『浜松やらまいか交流会 2025』参加者との意見交換
出 張 者 氏 名 印	中野 和幸

（出張の顛末）

第１部では、浜松市長より市政報告が行われ、浜松市を取り巻く現状と今後の市政運営の方向性について説明があった。

市長からは、「挑戦を恐れず、浜松らしい発想で未来を切り拓くことが重要である」とのメッセージが示され、参加者は浜松市の将来像について理解を深める機会となった。

第２部では懇親会が開催され、参加者同士が自由に意見交換・情報交換を行った。

市政報告会の内容を踏まえ、浜松市の将来や地域課題、産業振興、まちづくり等について活発な意見が交わされ、立場や世代を超えた交流が図られた。

和やかな雰囲気の中で相互理解を深めることができ、本交流会の目的である「人と人とのつながりづくり」に大きく寄与する場となった。

本交流会は、市政に対する理解を深めるとともに、参加者間のネットワークを強化する有意義な機会となった。

（備考）

（様式11）

令和　8　年　1　月　21　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳予　様

報　告　書

出張年月日	令和　8　年　1　月　20　日　(火)　18：00～20：10
出　張　先	東京都港区
出張の理由	『浜松やらまいか交流会』参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	辻村　公子

（出張の顛末）

「浜松やらまいか交流会」は、浜松市にゆかりのある方々が、地域を超えてつながり、親睦を深めるための集まりである。東京周辺に住んでいる浜松出身者や、浜松で働いた経験のある方を対象としており、ネットワークづくりや郷土愛の醸成を目的としている。

交流会の第一部には中野市長の市政報告会が行われ、令和７年度の浜松の取り組み、力を入れて推進する事業などの報告があり、最後には首都圏を中心とするはままつゆかりの人達と連携し、ふるさと浜松を盛り上げていきたいという思いを述べられた。

この「やらまいか」は字のごとく、新しいことに挑戦する精神を象徴すべく、今年度の「やらまいか大使」には、リチウム空気電池の研究をしている向山義治教授を始め、わが街・浜松宣伝部長　ご当地アイドルの H&A が選ばれた。各分野の第一線で活躍されている方々に、「浜松の魅力」を広く世界に発信してもらうために、今まで任命された大使の皆様の影響力は非常に重要であると感じた。

今年も経済界、行政、文化、芸能など、多種多様なジャンルで活躍する浜松ゆかりの人との意見交換は大変有意義なものとなり、会場内では浜松の特産品も振る舞われ、市内で活躍する企業始め、本市の最新の取り組みのブースもあわせて２０もの企業、本市の各部署が出展し、改めて浜松の魅力を感じることができた。

浜松市は「音楽のまち」「ものづくりのまち」として有名であるが、外に出た優秀な人材とこのような交流会を行い繋ぎ止めておくことで、新しいビジネスや文化につながることを期待する。

（備考）

令和　8年　1月　26日提出

（あて先）　会派名　　自由民主党浜松
　　代表者　　平野岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和　8年　1月　20日
出　張　先	東京都港区赤坂1-12-33　ANAインターコンチネンタルホテル東京
出張の理由	浜松やらまいか交流会参加者との意見交換
出　張　者 氏　名　印	藤田　典良[redacted]

（出張の顛末）

1月20日　午後18時から、ANAインターコンチネンタルホテル東京において開催された、浜松やらまいか交流会において、参加者と意見交換等を行った。主なやりとりは下記のとおり

【浜松やらまいか交流会】

◆運営状況の確認および人的体制について

本交流会の運営にあたっては、浜松市職員が中心となり、会場設営や進行、参加者対応等を担っていた。特に、自身と同世代の中堅職員が主体的に役割を果たし、来場者との円滑なコミュニケーションや臨機応変な対応を行っている様子は印象的であり、その活躍には目を見張るものがあった。こうした職員一人ひとりの力量や現場対応力が、浜松市の対外的な評価や信頼感の醸成にもつながっていると感じた。

◆ 参加者との意見交換等

新たにやらまいか大使に就任した、浜松市ご当地アイドル「H&A」の八木さんは、浜松市出身であり、かつて自身が中学校教員時代に教えた生徒でもある。本人からは、浜松市の PR 大使として今後も積極的に活動していきたいとの抱負が語られた。また、高校卒業後は東京へ進出し、メディア等への露出が増える中においても、浜松市出身であることを大切にしながら活動を続け、浜松市の魅力を広く発信していきたいとの意向が示された。

本市にゆかりのある関係者と意見交換を行い、首都圏における浜松市の認知向上や、人的ネットワークを活用した情報発信の重要性について認識を深めた。

◆所感

近年、アイドルやアーティスト等の「推し」の活動を応援する、いわゆる「推し活」は、日本国内において大きな市場規模を持つコンテンツへと成長している。
今回の交流会を通じ、浜松市出身の若者やアーティストが活躍する姿そのものが、市の魅力発信につながる可能性を強く感じた。

今後は、若者文化やエンターテインメント分野を観光振興やシティプロモーションと結び付ける視点を持ち、「推し活」を切り口とした施策についても検討を進めることで、交流人口・関係人口の創出や浜松市のブランド力向上につなげていくことが重要であると考える。

（備考）

（様式６）

A of 3

旅　費　支　払　証　明　書

出張年月日	令和 8 年 1 月 23日 （金） 14：00～16：00
出張先（目的）	東京都港区麻布台１丁目 NPOH 応身 NLA 運動実行委員会 青少年育成・地域教育活動について調査及び意見交換

出張者氏名	藤田　典良			

旅　費　額　内　訳

項　目	金　額	備　考
交通費	１５，７００ 円	12/24 往復新幹線乗車券　浜松駅⇔東京駅　@7,850 円×2×1 名分
〃	▲ ６０ 円	上記クレジット支払　ポイント相当分減額【 1p／1,000 円×4 円 】
日　当	１，５００ 円	@１，５００円 × １日 × １名分
合　計	１７，１４０ 円	

金　額		百	拾	万	千	百	拾	円
			¥	1	7	1	4	0

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和 8 年 1 月 27 日

代 表 者　会 長　平野 岳子 [redacted]

〈詳細〉　新幹線切符代　別紙領収書添付

行程

新幹線　地下鉄　　地下鉄　新幹線

浜松駅 == 東京駅 — 神谷町 … NLA 運動実行委員会事務局 … 神谷町 — 東京駅 == 浜松駅

※地下鉄代金は自己負担 請求・支出無

No. 90029253　スマートEX
表示日　2026年1月26日 16時07分

領収書
RECEIPT

宛名
RECEIVED FROM　自由民主党浜松

藤田典良　様

お預かり番号 RESERVATION NUMBER	2009		
金額計 TOTAL AMOUNT	￥7,850（10％・税込） （クレジットカード利用・Credit card use）	内容 DETAIL	乗車券類のご購入代金 TICKETS PRICE
購入日 DATE OF PURCHASE	2025年12月24日	乗車日 DATE OF DEPARTURE	2026年1月23日
取扱カード会社 CARD COMPANY	MUFG	クレジットカード番号 CARD NUMBER	XXXXXXXXXXXXXXXX
列車名・券種 利用区間	ひかり640号 浜松 FROM → 東京 TO		

東海旅客鉄道株式会社
Central Japan Railway Company
登録番号 T3180001031569

No. 01029253　スマートEX
表示日　2026年1月26日 16時07分

領収書
RECEIPT

宛名
RECEIVED FROM　自由民主党浜松

藤田典良　様

お預かり番号 RESERVATION NUMBER	2010		
金額計 TOTAL AMOUNT	￥7,850（10％・税込） （クレジットカード利用・Credit card use）	内容 DETAIL	乗車券類のご購入代金 TICKETS PRICE
購入日 DATE OF PURCHASE	2025年12月24日	乗車日 DATE OF DEPARTURE	2026年1月23日
取扱カード会社 CARD COMPANY	MUFG	クレジットカード番号 CARD NUMBER	XXXXXXXXXXXXXXXX
列車名・券種 利用区間	こだま747号 東京 FROM → 浜松 TO		

東海旅客鉄道株式会社
Central Japan Railway Company
登録番号 T3180001031569

GLOBAL POINT

グローバルポイントは、1ショッピングご利用金額1,000円ごとに基本ポイントを1ポイント付与（1ポイント5円相当）いたします。ポイントの有効期限は獲得月から2年間（24ヶ月）です。商品やギフトカードに交換したり、ほかのポイントに交換したり、キャッシュバックしたりすることができるとてもお得なポイントです。

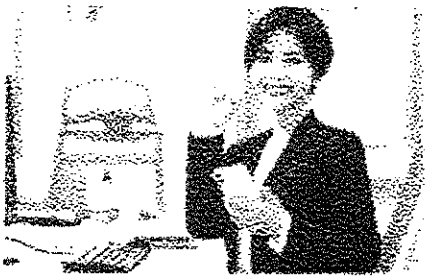
グローバルポイントを使う



欲しかったモノに交換！おすすめ商品

貯まったポイントを商品に交換できます。商品の交換受付期間は、4月1日～翌年3月31日（通年受付可能）です。

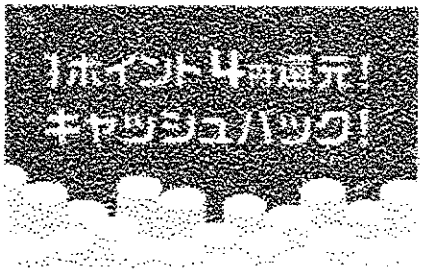
Web商品カタログを見る



使い道いろいろ！他のポイントに移行

グローバルポイントのポイントを提携先のサービスに移行できます。

ポイント移行を見る

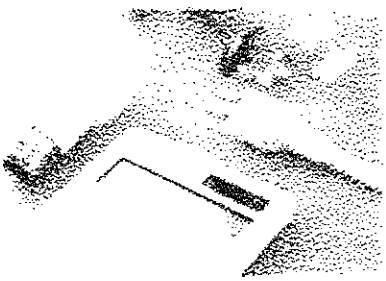


1ポイント4円に還元！キャッシュバック

WEBからすぐお申込みできて、最短次回請求から差し引きできます。

キャッシュバックを見る

グローバルポイントを貯める



POINT名人.com

（様式８）

令和　７年　１２月　４日

会派名 浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

申請議員　　藤田　典良 [redacted]

出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

１　出張者

藤田　典良

２　期間及び出張先

令和　８年　１月　２３日（金）　１日

ＮＰＯ法人ＮＬＡ運動実行委員会 [redacted] 氏

住所：東京都港区麻布台１丁目

３　目的

青少年育成および地域教育活動に関する現状調査と意見交換

ＮＰＯ法人 NLA 運動実行委員会の取り組み内容についてヒアリングを行い、青少年育成・地域教育活動における課題や成果、行政との連携可能性等について意見交換を行い、市政における施策検討の基礎資料としたい。

視察依頼書送付願

令和　　年　　月　　日

浜松市議会議長　　様

会 派 名
代表者氏名　　㊞

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

（様式11）

A0103

令和 8 年 1 月 26 日提出

（あて先） 会派名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者 会長 平野 広子 様

報 告 書

出張年月日	令和 8 年 1 月 23 日 (金)
出 張 先	東京都港区麻布台一丁目10-9 青少年センタービル3階
出張の理由	青少年育成及び地域教育活動に関する現状について 調査・意見交換会
出 張 者 氏 名 印	藤田 典良

（出張の顛末）

別紙 報告書の通り

（備考）

令和 8年 1月 26日

出張報告書

自由民主党浜松
藤田 典良

出張日　令和８年１月２３日（金）

時　間　１４：００～１６：００

出張先　ＮＰＯ法人ＮＬＡ運動実行委員会
所在地：東京都港区麻布台一丁目

対応者　[redacted] 氏

調査内容　青少年育成および地域教育活動に関する現状について調査を行った。あわせて、ＮＰＯ法人ＮＬＡ運動実行委員会の設立経緯、活動理念、学生主体による運動の展開方法、大人の関わり方や支援の在り方についてヒアリングを行い、行政との連携可能性について意見交換を実施した。

結　果　本視察を通じ、青少年育成においては、学生一人ひとりが主体となって行動することの重要性を確認した。学生自身が自らの思いや考えを周囲に伝え、運動として広げていく仕組みが構築されており、その過程で主体性や責任感が育まれている点が成果として挙げられる。また、大人は指導者として前面に立つのではなく、サポート役として関わり、自身の経験や体験を通じて助言を行うことで、学生が自ら気づき、考え、行動することを促している点が特徴的であった。

課　題　学生主体の活動を継続的に支えていくためには、大人や地域が適切な距離感を保ちながら関与し続ける体制づくりが必要である。また、活動の理念や手法をより多くの関係者に共有し、理解を深めていくための仕組みづくりが今後の課題であると感じた。

本視察を通じて得られた知見は、浜松市における青少年育成および地域教育施策においても大いに参考となるものである。特に、学生が主体となって自らの考えや思いを発信し、周囲へと運動を広げていく取組は、若者の主体性や社会参画意識を育む上で有効であると感じた。大人や地域の関わり方として、指示や管理を前面に出すのではなく、経験や体験を通じて助言を行い、若者自身に「気づき」を促す支援の在り方は、学校教育や地域活動の双方において重要な視点である。浜松市においても、青少年が自ら考え行動できる環境づくりを進めるとともに、行政・学校・地域・民間団体がそれぞれの役割を生かしながら連携し、若者を支える仕組みづくりを検討していく必要がある。

視察行程　浜松駅 ―― 東京駅 ―― 神谷町　（往路）
新幹線　地下鉄

神谷町 ―― 東京駅 ―― 浜松駅　（復路）

（様式６）　　A020/

旅　費　支　払　証　明　書

出張年月日	令和８年２月16日（月）～ ２月17日（火） ２日間			
出張先（目的）	2/16 海老名市 【神奈川県立産業技術総合研究所】 2/17 静岡県東伊豆町 行政視察			
出張者氏名	平野 岳子	久米 丈二	露木里江子	中野 和幸
	齋藤 和志	辻村 公子	鈴木 裕之	（計７名）

旅　費　額　内　訳

項　目	金　額	備　考
交通費	107,730円	ＪＲ新幹線・東海道線・伊東線 切符代 浜松―小田原―伊豆稲取 往復 @15,060円×7名分＝105,420円 ＋ 取扱料金 @330円×7名分＝2,310円
〃	11,120円	小田急線電車代 小田原―海老名 往復 @480円×2×7名分＝6,720円 タクシー代実費 海老名駅―研究所 ①往路@1,000円×2台＝2,000円 （2/16現地交通費） ②復路@1,200円×2台＝2,400円
視察費	1,750円	グリーンモビリティ（箱根きんめ号 @250円×7名分＝1,750円） 2/17 現地視察費 ／ 合同会社うさぎ企画 （③領収書別紙添付）
宿泊費	103,600円	@14,800円 × 1泊 × 7名分
日当	21,000円	@ 1,500円 × 2日 × 7名分
土産代	3,853円	視察先2か所 うなぎパイ2ケ ／ 2/12 FamilyMart 浜松市役所S店
合　計	249,053円	

金　額		百	拾	万	千	百	拾	円
		¥	2	4	9	0	5	3

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和８年２月20日

代表者　会長　平野 岳子 [redacted]

〈詳細〉　2/10 支払　JR切符代・取扱手数料 ／ サニートラベル社 【領収書裏面添付】
2/12 支払　視察先土産代
※2/16 現地タクシー代支払は、時間的・地理的要因によりタクシー利用したもの。

No 14604

領収証

令和 2 年 2 月 [illegible] 日

[illegible] 様

[redacted] 10750 円

但 JR代、ラベル代、アルコール

内訳
税金 [illegible]
小切手
振込

御度ありがとうございます。上記の通り領収致しました。

[redacted]

2000

株式会社 サニートラベル
〒432-8123 浜松市中区和合[redacted]
TEL 053[redacted]
FAX 053[redacted]
登録番号 T8090401001894

担当 [redacted]

(JR代 @ 15060円 × 7名
取扱手数料 @ 330円 × 7名

FamilyMart

浜松市役所／S店
静岡県浜松市中央区元城町１０３番地の２
電話：063-460-0660

登録番号：T2080401027228

2026年 2月12日（水） 13:40
ﾚｼﾞ 1-3388 責No.013

領収証

食品	¥1,542軽
食品	¥2,311軽
合計	¥3,853
（8%対象	¥3,853）
（内消費税等	¥285）
お預り	¥10,000
お釣	¥6,147

「軽」は軽減税率対象商品です。

うなぎパイ（領収元ロッテ）

お客様No. [redacted]

請　求　書

No. 1-1

26 年 2 月 28 日 締切分 (30)

<静岡県知事登[redacted]2-370号>
株式会社サニ[redacted]
〒433-8125
静岡県浜松市中[redacted]936番地の503
TEL 053-476-0432 FAX 053-476-0565

浜松市議会　自由民主党　浜松 御中

<振込先> 静岡銀行　葵町支店(普) 0346193
浜松いわた信用金庫　和合支店(普) 0648180
遠州信用金庫　本店営業部(普) 1080162

TEL:　　FAX:

担当者 [redacted]

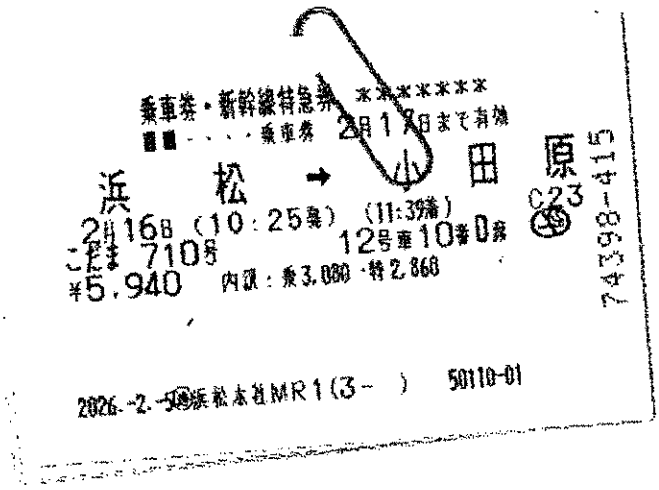
登録番号：T8080401001994

前回御請求額	繰越金額	調整額	御入金額	御買上額	内消費税等	今回御請求金額		
			0	107,730	9,794	¥107,730		

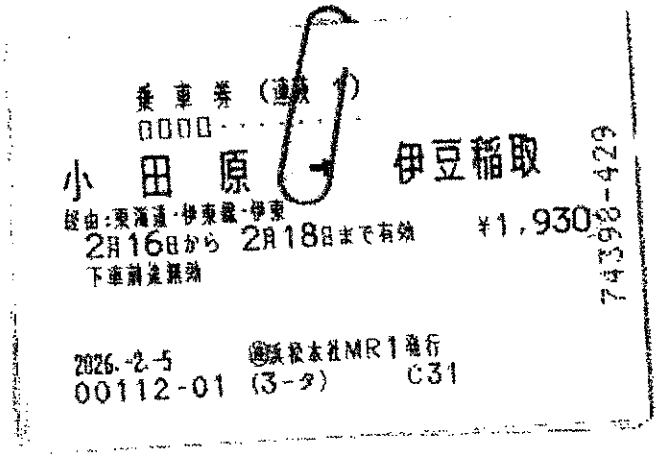
伝票日付	伝票No.	内容	数量	単価	金額	税率
26/ 2/10	1127	【日程　2026年2月16日-17日】				
		JR代　・取扱料金	7	15,390	107,730 *	10.0%
		【合　　計】			107,730	
		(内消費税等)			9,794	
		税率　課税対象額　消費税等				
		10.0　¥97,936　¥9,794				

注)※印は軽減税率(8%)適用商品

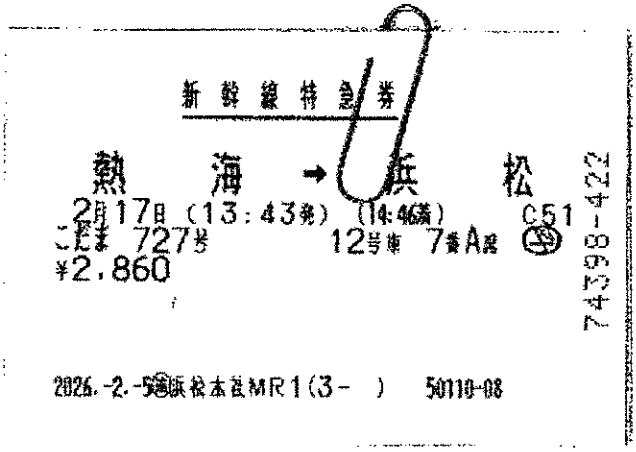
上記振込先に　　月　　日までにお振込みください。
振込手数料は貴社(貴方)ご負担にてお願い申し上げます。



乗車券・新幹線特急券 ＊＊＊＊＊＊＊
■■・・・・乗車券 2月17日まで有効
浜 松 → 小 田 原 C23
2月16日 (10:25発) (11:39着)
こだま 710号 12号車 10番D席
¥5,940 内訳：乗3,080・特2,860
2026.-2.-5 ㊞浜松本社MR1(3-) 50110-01
74398-4415



乗車券（連続 1）
0000・・・・・
小 田 原 → 伊豆稲取
経由：東海道・伊東線・伊東
2月16日から 2月18日まで有効 ¥1,930
下車前途無効
2026.-2.-5 ㊞浜松本社MR1発行
00112-01 (3-タ) C31
74398-4429



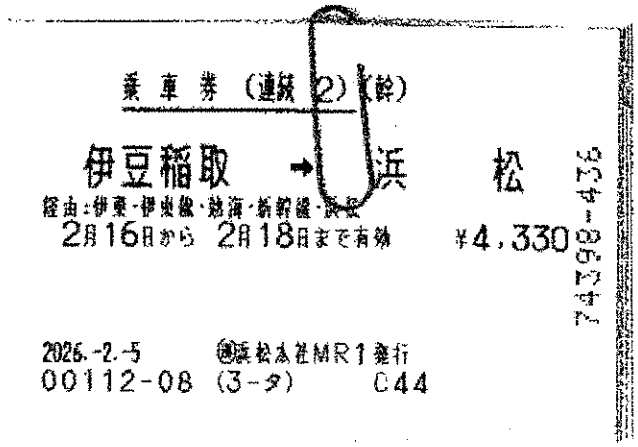
新幹線特急券
熱 海 → 浜 松
2月17日 (13:43発) (14:46着) C51
こだま 727号 12号車 7番A席
¥2,860
2026.-2.-5 ㊞浜松本社MR1(3-) 50110-08
74398-4422

(株)ヤマトプロビジョン

①-1 JR往復代
¥1940円・1930円・2860円＝6730円
※¥1940円×7名分 ＝ 13580円

①-2 宿泊税手数料
※ ¥315円×7名分 ＝ 2,210円

支出計 15,790円



乗車券（連続 2）（幹）
伊豆稲取 → 浜 松
経由：伊東・伊東線・熱海・新幹線・浜松
2月16日から 2月18日まで有効 ¥4,330
2026.-2.-5 ㊞浜松本社MR1発行
00112-08 (3-タ) C44
74398-4436

① 2/6 海老名駅 → 相模原
@1000円 × 2台

領収書

車両番号　　4415号
2026年02月06日13:11
領収ご乗車ありがとうございます
(現金、チケット、クーポン、カード)

乗車料金	1000円
運賃料金計	1000円
計	1000円
消費税率	10.0%

日本交通横浜 大和営業所
TEL 046(261)8970
その他ご意見・ご要望はカスタマーサポートデスクへ
TEL 0570-051-070(内線200) 平日9:00～17:00

領収書

車両番号　　4417号
2026年02月06日13:11
領収ご乗車ありがとうございます
(現金、チケット、クーポン、カード)

乗車料金	1000円
運賃料金計	1000円
計	1000円
消費税率	10.0%

日本交通横浜 大和営業所
046(261)8970
その他ご意見・ご要望はカスタマーサポートデスクへ
TEL 0570-051-070(内線200) 平日9:00～17:00

② 2/6 相模原 → 海老名駅
@700円 × 2台

領収書

車両番号　　4414号
2026年02月06日13:14
領収ご乗車ありがとうございます
(現金、チケット、クーポン、カード)

乗車料金	700円
運賃料金	400円
計	1100円
アプリ手配料金	100円
計	1200円
消費税率	10.0%

日本交通横浜 大和営業所

乗車	降車
領収書	No. 3612
日付	26年02月16日
車種	4656
	800
メール連絡	¥700-
運賃料金	¥400-
アプリ手配料金	¥100-
運賃料金計	¥1,100-
通行料金	¥100-
合計	¥1,200-

1点の値引き後金額となります

消費税率　10%
登録番号　T6070001050478
領収書　車中自筆でございます
KanachuTAXI
(株)海老名相中
配車センター 050-3100-3333
オペレーター 046-234-1211
乗車・降車は
神奈交グループ 協会 相模支部
TEL 046-277-0000

277

領収書
(自分用)

領収書

No.

様

2026年2月17日

金額

1,750円

但し、 稲取きんめ号乗車運賃 （ 7名分）

として領収いたしました。

税率内訳	税抜金額（¥）	消費税（¥）
10%		
%		

合同会社うさぎ企画
〒411-0943
静岡県駿東郡長泉町下土狩1537-1-406
TEL：090-5763-5063

稲取きんめ号
1回券
250円

ID:124782749
TicketQR

自由民主党浜松視察日程表

視察日程　令和８年２月１６日（月）～１７日（火）
視 察 先　神奈川県立産業技術総合研究所・静岡県東伊豆町
視 察 者　平野岳子議員　齋藤和志議員　諸木里江子議員　中野和幸議員
　　辻村公子議員　鈴木裕之議員　久米丈二

２月１６日（月）	【集合：浜松駅新幹線改札口前１０：０５集合】 浜松駅　１０：２５═══１１：５３小田原駅１２：５８ （こだま７１０）　（小田急線） ═══海老名駅 13：25 タクシー（10 分）神奈川県立産業技術総合研究所（視察） ＜視察＞　14：00～15：00 **調査項目** ・先端技術分野における研究支援について ・技術相談・試験分析につて ・産業支援とスタートアップ支援について タクシー═海老名駅 15：２５═══１６：０８小田原駅 16： （小田急線） ２９═══１７：１６伊東駅１７：３４═══１８：０１伊豆 （東海道伊東線）　（伊豆急線） 高原駅１８：０５═══１８：２６伊豆稲取駅ホテルバスにて （伊豆急線） ≪稲取泊≫	神奈川県立産業技術総合研究所 担当者：[redacted] TEL046－236－1500 （昼食）（各自） （ 【宿泊】伊豆稲取温泉ホテル喜久田 東伊豆町稲取 1568 TEL0557－95－2537
２月１７日（火）	【集合：ホテルロビー 8：30】 ホテル前（送迎バス）8：30═══9：00═東伊豆町役場 （伊豆急線）　9:05～40 9：00（視察）10：30　9:45～岩井町長 東伊豆町役場視察　10:30～ **調査項目** グリーンスローモビリティー事業・低速電気自動車を利用した公共交通サービスについて　200円. 稲取（昼食）伊豆稲取駅１２：０６＝＝＝１３：１６熱海 （伊豆急行伊東線） １３：４３═══浜松駅 14：46 着 （こだま８２７）	東伊豆町　企画調整課　政策推進係　吉田瑞樹 TEL0557－95－6202

(様式8)

令和８年２月５日

会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会 長　平野　岳子　様

会派名　浜松市議会 自由民主党浜松
氏　名　視察幹事　久米　丈二[redacted]

出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

１　出張者　　平野　岳子 議員　齋藤　和志 議員　久米　丈二 議員
露木里江子 議員　中野　和幸 議員　辻村　公子 議員
鈴木　裕之 議員　（計７名）

２　期間及び出張先

令和 ８ 年 ２ 月１６日（月）　～　２ 月１７日（火）　２日間

海老名市（神奈川県立産業技術総合研究所）　・　静岡県東伊豆町

３　目的

2/16　神奈川県立産業技術総合研究所

・先端技術分野における研究支援について
・技術相談・試験分析について
・産業支援とスタートアップ支援について

2/17　東伊豆町役場

・グリーンスローモビリティ事業・低速電気自動車を利用した公共交通サービスについて

視察依頼書送付願

令和 ８ 年 ２ 月 ５ 日

浜松市議会議長　高林 修 様

[redacted]
会 派 名　浜松市議会 自由民主党浜松
代表者氏名　会長　平野　岳子

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

自由民主党浜松視察日程表

視察日程　令和８年２月１６日（月）～１７日（火）
視 察 先　神奈川県厚木市神奈川県総合防災センター　静岡県東伊豆町
視 察 者　平野岳子議員　齋藤和志議員　露木里江子議員　中野和幸議員
　　辻村公子議員　鈴木裕之議員　久米丈二

２月１６日（月）	【集合：浜松駅新幹線改札口前１１：１０集合】 浜松駅　１１：２５＝＝＝１２：４２小田原駅１２：５４ （こだま７１４）　（マンスカーはこね８号） ＝＝＝海老名駅 13：25 タクシー（10 分）神奈川県立産業技術総合研究所（視察） <視察>　14：00～15：00 調査項目 ・先端技術分野における研究支援について ・技術相談・試験分析について ・産業支援とスタートアップ支援について ＝＝海老名駅 15：０４＝＝＝１５：４９小田原駅１６：０２ ＝＝＝17：５３伊豆稲取駅 ≪稲取泊≫	神奈川県立産業技術総合研究所 担当者：[redacted] ℡046－236－1500 （昼食）（各自） （ 【宿泊】伊豆稲取温泉ホテル海久田 東伊豆町稲取 1568 TEL0557－95－2537
２月１７日（火）	【集合：ホテルロビー 8:15】 ホテル発（送迎バス）８：30＝＝＝9：00＝＝東伊豆町役場 （伊豆急線） 9：00（視察）10：30 東伊豆町役場視察 調査項目 グリーンスローモビリティー事業・低速電気自動車を利用した公共交通サービスについて 伊豆稲取駅 12：06＝＝＝13：16 熱海駅 13：43＝＝＝14：46 （伊豆急・伊東線）　（こだま） 浜松駅着	東伊豆町　企画調整課　政策推進係　吉田端樹 ℡0557－95－6202

（様式11）

A020

令和 8 年 2 月 20 日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和 8 年 2 月 16 日(月) ～ 2 月 17 日(火) 2日間
出張先	海老名市 ・ 静岡県東伊豆町
出張の理由	会派行政視察 海老名市 ： 神奈川県立産業技術総合研究所　視察 ○ 先端技術分野における研究支援について ○ 技術相談・試験分析ついて ○ 産業支援とスタートアップ支援について 東伊豆町役場 ○ グリーンスローモビリティ事業・低速電気自動車を利用した公共交通サービスについて
出張者 氏名印	平野　岳子 [redacted]　齋藤　和哉 [redacted]　久米　丈二 [redacted] 露木里江子 [redacted]　中野　和幸 [redacted]　辻村　公子 [redacted] 鈴木　裕之 [redacted] （計7名）

（出張の顛末）

別紙　報告書の通り

（備考）

自由民主党浜松視察報告書

久米丈二

視察日程　令和８年２月16日（月）～17日　（火）

視察先　　神奈川県立産業技術総合研究所

視察者　　平野岳子　齋藤和志　露木里江子　中野和幸

　　辻村公子　鈴木裕之　久米丈二

視　察　日　２月16日（月）

視　察　先　神奈川県立産業技術総合研究所

視察項目

・先端技術分野における研究支援・技術相談・試験分析、産業支援とスタートアップ支援について

（出張の顛末）

神奈川県立産業技術総合研究所は、基礎研究から製品化までの一連の技術支援を行うことで、県内産業と科学技術の振興を図るとともに、企業支援ネットワークの中心的機関として、研究開発・技術支援・事業化支援・人材育成・連携交流の５本の柱でお客様の要望に応えることにより、豊かで質の高い県民生活の実現とお客様満足度の更なる向上に努める研究をしている。

令和６年度は、産業構造の転換やAIなどデジタル技術の急速な変化に直面する中小企業の支援のため、新たに生成AI活用推進事業を開始するなど民間企業の支援をしている。

（所感）

神奈川県立産業技術総合研究所は、神奈川県内の中小企業のための基礎研究や、産業部品等の強度研究。試験分析、また、最新AI技術研究・普及に務めている。

静岡県内にも同等の研究施設はあるが、分散していてこのような巨大な研究施設はない。

本市浜松は産業都市として発展してきているため、このような研究機関も重要なアイテムであると感銘した。

視　察　日　2月17日（火）
視　察　先　東伊豆町役場
視察項目　東伊豆町におけるグリーンスローモビリティー事業、低速電気自動車を利用した観光開発について

（出張の顛末）

東伊豆町は、伊豆半島東海岸の中央に位置し、北西に天城連山があり、東南は相模灘に面している。

人口は、昭和50年当時は17,324人をピークに減少が進んでおり、現在は11,000人と少子高齢化による人口減少が進んでいる、主要な交通網として鉄道は伊豆急行線が海岸沿いに走り、道路は国道135号が同じく海岸線を走っている。

東伊豆町における公共交通、自動手段における課題として、電車で訪れる観光客の移動手段が不足し、観光客の同町内の周遊性が低い、また高齢者が、坂道が多く外出困難であり、幅のせまい道路が多く、大型車の運行が困難、タクシーの運転手不足により、配車困難なケースが増加している。

そこで、東伊豆町の公共交通の将来像とし、コンパクト＆ネットワークで暮らしをつなぐ町の足とし、駅から家まで、鉄道・ノッカル・グリスロが支える安心の移動手段にあげている。

グリーンスローモビリティーのメリットとし、導入期間、利用頻度が増えるほど外出が増加し、車内での会話も増え、高齢者等の若返りの可能性もある。

実験期間は2026年1月17日～3月8日までの51日間を予定し、事業費13,988千円で、財源は県補助金「ふじのくにフロンティア地域循環共生圏形成事業費補助金で3分の2補助の9,325千円、町費3分の1で4,663千円である。

（所感）

本市浜松においても、中山間部においての移動実験なども行ったが、中山間部にとどまっていた。

しかし、観光分野においては、浜名湖周遊や市内観光地域などは将来的に非常に魅力ある事業であると考える。国においての補助制度は令和7年度で終了してしまって、運送へのモビリティー事業支援へとシフトしてしまったが、この先はこのモビリティー事業を実験事業としての補助金ではなく、事業化の為の補助制度創出させるための働き方を進めていかなければならないと強く感じた。

（様式11）

令和 8 年 2 月 18 日提出

（あて先）会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長 平野 岳子 様

報 告 書

出張年月日	令和 8 年 2 月 16 日（月）～17 日(火)
出 張 先	■2 月 16 日(月)神奈川県立産業技術総合研究所 ■2 月 17 日(火)グリーンスローモビリティ(東伊豆町)
出張の理由	**【神奈川県立産業技術総合研究所】** 神奈川県立産業技術総合研究所が行う、技術相談・試験分析・スタートアップ支援などの産業支援の仕組みを調査し、本市の産業振興施策の参考とするため。 **【グリーンスローモビリティ（東伊豆町）】** 東伊豆町が導入しているグリーンスローモビリティ（低速電気自動車）を活用した公共交通サービスの取組を調査し、地域交通の確保や移動手段の多様化に向けた本市の施策の参考とするため。
出 張 者 氏 名 印	齋藤和志

（出張の顛末）

【神奈川県立産業技術総合研究所】2 月 16 日（月）

神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）を視察し、研究所の概要と主要な支援事業について説明を受けた。KISTEC は、試験分析や技術相談、研究開発支援、スタートアップ支援などを行う公設試験研究機関で、中小企業の技術力向上を支えている。

視察では、技術相談の仕組み、材料評価や信頼性試験などの試験分析、共同研究、創業期企業への支援、人材育成プログラムについて説明を受けた。これらは企業の製品化を後押しする取り組みであり、浜松地域の産業支援施策を考える上でも参考となる内容であった。

【グリーンスローモビリティ（東伊豆町）】2 月 17 日（火）

東伊豆町が導入している低速電気自動車（グリーンスローモビリティ）による公共交通サービスについて説明を受け、運行の仕組みや地域での活用状況を確認した。視察では実際に車両に乗車し、走行の安全性や乗り心地、ルートの特徴を体験した。高齢者の移動支援や観光回遊に役立つ取り組みであり、本市の地域交通施策の参考となる内容であった。

（備考）所感

【神奈川県立産業技術総合研究所】2 月 16 日（月）

今回の視察で得られた知見は、本市の産業支援と地域交通政策の両面で活用できる内容であった。神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）の取組は、静岡県工業技術研究所や浜松市の産業支援施策と共通する部分が多く、特に技術相談や試験分析、スタートアップ支援の体制づくりは、本市の企業支援の強化に生かすことができる。県の工技研との連携を深めることで、企業が利用しやすい支援メニューの拡充や、研究開発から事業化までの一体的な支援体制の構築につながると考えられる。

【グリーンスローモビリティ（東伊豆町）】2 月 17 日（火）

東伊豆町で導入されているグリーンスローモビリティは、高齢者の移動支援や観光地の回遊性向上に寄与しており、地域の実情に応じた柔軟な交通サービスの一例として参考となった。浜松市においても、過疎地域や観光地での移動手段確保が課題となっていることから、低速電気自動車を活用した新たなモビリティの導入可能性や、既存交通との組み合わせによる地域交通の改善に反映できると考えられる。

（様式11）

令和 8 年 2 月 19 日提出	
（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松 代表者　会長　平野　佑子　様	
報　告　書	
出張年月日	令和8年2月16日（月）　14:00～15:30
出　張　先	地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEK）
出張の理由	中小企業のイノベーションを支える司令塔である KISTEK と地域産業振興への役割について
出　張　者 氏　名　印	露木　里江子

（出張の顛末）

地域経済の未来を創る技術の総本山ともいえる「地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEK）」を視察。[redacted] ほか役員・部長級職員計8名が対応してくださった。

神奈川県立産業技術総合研究所（以後 KISTEK）は、中小企業のイノベーションを支える司令塔であり、2017年4月に設立され職員数211名を擁する神奈川県の産業振興の要である。[redacted] をはじめとする幹部の方々より、第二期中期計画における重点項目と、その基本理念について伺った。

3つの重点方向性デジタル化の推進、DXを通じた生産性向上カーボンニュートラル 脱炭素社会への技術対応や、持続可能な健康長寿社会を目指す。（未病・医療技術の発展）

目的は、中小企業のイノベーション創出を支援であり、大学等の有望な研究シーズ（種）を、3段階の「ステージゲート方式」による厳格な進捗管理で育成している。神奈川県内の中小企業を中心に、技術と科学の力で地域経済の発展と県民生活の向上に貢献することを使命としている。KISTEK は、中小企業を孤立させないことが重要で支援重視であると感じた。

研究所内を視察し、機械材料、電子情報、生産科学など、各分野の最先端機器と専門職員による支援体制を確認した。

技術支援として、技術的な悩みに対し、専門職員が無料で相談に応じている。年間1～2万件の相談から、県内外、さらには国外からの相談まで幅広く対応している。解決に向けた最適なメニューを提案していこうとしている。事業化支援（新製品・サービスの創出）開発段階に応じ、「技術デザイン」「知的財産」「経営」「金融」といった多角的な側面から総合支援している。単なる技術提供に留まらず、ビジネスとしての成功を後押しすることに注力している。

人材育成（次世代を担うリーダーの創出）として、Society 5.0、先進医療、環境エネルギーといった重点分野の教育講座を開催している。技術力の底上げを図る「製造開発人材育成」と「産業技術マネジメント研修」の両輪で支援している。連携交流・開放機能の強化として、試験計測、製品や原材料の品質確認、トラブル発生時の原因究明など、高度な分析測定を実施しており、中小企業を技術面で科学的にも支援している。

また、KISTEKのノウハウと設備を活用した「受託研究」制度も整備されている。「下町のブランホーパー戦略」とKISTEKが掲げるビジョンは非常にユニークかつ力強いものであると感じた。中小企業が自律的に「運営から経営へ」とシフトできるよう戦略を推進している。戦略の柱は

・内容研究力の向上分析・計測・標準機能の強化と優れた研究機能の展開

・ソリューションの拡充総合力を生かした事業拡大

既存メニューに縛られない柔軟な対応。マネジメントの強化組織としての経営力を高め、中小企業の事業強化を直接的に支援。

【視察を終えての所感】

中小企業にとって、自社で高額な分析機器や専門研究員を抱えることは容易ではない。KISTEKは、いわば「共同のR&D（研究開発）部門」として、迅速かつ科学的な知見を提供してくれる極めて頼もしい存在であった。特に「既存メニューにとらわれず、スピード感を持って完了させる」というソリューション事業のモットーは、変化の激しい現代の産業界において、中小企業にとっての大きな安心材料になると確信した。本市の企業にとっても、このリソースをいかに活用し、イノベーションを起こしていくかが、地域経済活性化の鍵となる。

（様式 11）

令和 8 年 2 月 19 日提出	
（あて先） 会派名 浜松市議会 自由民主党浜松 代表者 会長 平野 岳子 様	
報 告 書	
出張年月日	令和8年2月17日（火） 9時～11時
出 張 先	静岡県賀茂郡東伊豆町役場
出張の理由	巡回型グリーンスローモビリティによる実証実験の視察
出 張 者 氏 名 印	露木 里江子

（出張の顛末）

東伊豆町長 岩井茂樹 氏、町担当職員が対応してくださった。

視察の目的人口減少と少子高齢化が急激に進む東伊豆町において、地域住民の移動手段確保と観光客の周遊性向上を目的とした「巡回型グリーンスローモビリティ（以下、グリスロ）」の実証実験を視察した。

町長との面談および実乗を通じ、公共交通の将来ビジョンと自動運転導入の可能性について調査・研究することを目的とした。

東伊豆町の現況と公共交通の課題として、東伊豆町は、伊豆急行線の 5 つの駅を有する鉄道網を持ちながらも課題を抱えている。

① 地形・道路環境：坂道が多く、高齢者の外出が困難であること。また、道幅が狭く、大型バスの運行に制約があること。

② 交通資源の不足： タクシー運転手不足による配車困難ケースが増加。

③ 観光課題： 電車利用の観光客にとって二次交通（駅から目的地まで）が不足しており、周遊性が低い。

④ 人口動態：昭和 50 年の約 1 万 7 千人をピークに現在は約 1 万 1 千人まで減少。

この実証実験は岩井町長の提案により開始された本事業は、駅を拠点とした「コンパクト＆ネットワーク」の形成を目指している。

運行期間 2026 年 1 月 17 日 ～ 3 月 8 日（51 日間）運行エリア稲取地区（1 周約 2km、13 箇所の停留所を設置）運行形態は、1 時間に 1 本の巡回型運行（ヤマハ製 6 人乗り電動カート 1 台）運賃体系 1 回乗車 250 円 / 1 日乗り放題 500 円（電子決済・プリペイドカード）運行管理株式会社は、東海バス予算。財源総額 13,988,000 円（県：ふじの国フロンティア地域循環共生権補助金 2/3、町：1/3）※別途、自動運転の実証実験（2 週間）では約 3,000 万円の事業費を要している。

（様式1）

グリーンスローモビリティ導入の効果実証実験および共同研究により、以下のポジティブなデータが示されている。
健康寿命の延伸： 利用者は非利用者に比べ、外出機会が 1.7〜1.9 倍増加した。要支援・要介護リスクが低減し、「1歳若返る」可能性が示唆されている。
コミュニティ形成： 車内での会話発生率は約 9 割。初対面同士でも約 65%が会話を交わすなど、開放型車両特有の交流促進効果が見られる。
観光案内機能： 運転手やスタッフを介した地域情報の提供、店舗紹介など、移動そのものを観光コンテンツ化できる可能性。

【岩井茂樹町長との面談】
岩井町長からは「東伊豆町まちづくり総合指針」に基づき、5 つの駅を核とした公共交通の将来像を伺った。町長のビジョンとして、「駅から家まで」を鉄道、AI デマンドバス「ノッカル」、そしてグリスロが補完し合うネットワークの構築を考えている。令和 8 年度に再度の実証実験、令和 9 年度からの本格導入を目指している。
【視察・実乗の印象】
実際にプリペイドカードを購入し、稲取地区を試乗した。車内では河津桜や、つるし雛を目的とした観光客と交流する機会があり、開放的な車両は非常に快適であった。特に、自動運転化が進む中でも「社内でのコミュニケーション」を価値として捉え、地域住民による観光案内など、付加価値を創造しようとする町の姿勢は、我が自治体における交通政策にも極めて示唆に富むものである。
【今後の展望と提言など】
本実証実験は、単なる移動手段の確保に留まらず、ふるさと納税の拡大や関係人口の増加、さらには住民のウェルビーイング向上に直結する施策である。自動運転における「運転手不在による接客性の低下」という課題を、いかにデジタル（車内モニター等）や地域住民のボランティアで補完するかが今後の鍵になると考える。



自由民主党浜松　視察報告書

中野　和幸

視察日程：

令和８年２月16日（月）～17日（火）

視察者：

平野岳子議員、斎藤和志議員、露木里江子議員、辻村公子議員、鈴木裕之議員、
久米丈二議員、中野和幸

① ２月１６日（月）

神奈川県立産業技術総合研究所　KISTEC　（神奈川県海老名市）

調査項目

・先端技術分野における研究支援
・技術相談、試験分析
・産業支援とスタートアップ支援

同研究所では、AI・次世代材料・ライフサイエンス等の成長分野を重点領域とし、企業の研究開発段階から事業化・製品化に至るまでを一貫して支援する体制が整備されていた。高度な試験分析機器の開放利用に加え、専門研究員による技術相談や共同研究、さらには知的財産や販路展開を見据えた助言まで行うなど、実践的かつ伴走型の支援が特徴である。

また、中小企業が単独では導入困難な設備や高度分析技術を活用できる環境を整えることで、技術力の底上げと競争力強化を図っている点も印象的であった。産学公連携のハブとして大学や金融機関とも連動し、スタートアップ支援や新分野参入を後押しする仕組みが構築されている。

浜松市においても、既存産業支援の充実に加え、次世代産業を見据えた戦略的分野への重点投資と、企業に寄り添う伴走型支援体制の強化が重要であると感じた。

② 2月17日（火）

東伊豆町役場（静岡県賀茂郡）

調査項目

・グリーンスローモビリティー事業

・低速電気自動車を活用した公共交通サービス

人口減少と高齢化が進む地域において、時速20km未満の電動車両を活用し、観光振興と生活交通の両立を図っている点が印象的であった。運賃200円という利用しやすい価格設定により、高齢者の移動支援と地域内回遊性向上を実現している。

浜松市においても、中山間地域や観光地における新たな交通手段として導入可能性がある。特に高齢者の移動課題解決と脱炭素の視点を組み合わせた政策展開が期待される。

総括

今回の視察では、「産業競争力の強化」と「地域生活の持続性確保」という一見異なるテーマであっても、いずれも地域の将来像を明確に描き、そこから逆算して政策を構築している点が共通していると感じた。

神奈川県では、成長分野に資源を集中投下し、専門人材と設備を核に企業支援の高度化を図っていた。一方、東伊豆町では、地域規模に応じた現実的な交通施策を展開し、住民の利便性向上と観光振興を両立させていた。

浜松市においても、都市部と中山間地域の双方を抱える特性を踏まえ、産業政策と地域政策を分断するのではなく、横断的に組み合わせていく視点が重要である。将来を見据えた戦略的な施策形成と、現場の実情に即した実行力の両立に向け、今後の政策提言に活かしていきたい。

自由民主党浜松視察報告書

辻村　公子

視察日程　令和８年２月16日（月）～17日（火）

視察先　　神奈川県立産業技術総合研究所

　　静岡県東伊豆町役場

視察日	令和８年２月16日（月）
視察地	神奈川県立産業技術総合研究所
調査項目	・先端技術分野における研究支援について
	・技術相談・試験分析について
	・産業支援とスタートアップ支援について

視察の顛末

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所は平成29年に公設試験研究機関の神奈川県産業技術センターと公益財団法人神奈川科学技術アカデミーが発展的に統合し設立された。

中小企業のイノベーション創出を支援するために、５つの柱のそれぞれの事業に最も力を注ぎ、お客様の満足度のさらなる向上に努めている。

５つの柱には『研究開発』『技術支援』『事業化支援』『人材育成』『連携交流』があり、その５つの柱の内容については以下の通りである。

研究開発【新たな成長産業の創出】プロジェクト研究として、大学等の有望な研究シーズを育成するプロジェクト研究を推進するため、３段階のステージゲート方式により、長期間にわたる研究の進捗管理を行う。そのほかにも国等の資金を利用した研究、ライフサイエンス評価法開発研究、重点課題研究がある。

技術支援【技術課題の解決・品質の向上】技術的な課題を解決するための技術相談を受けており、試験計測、技術開発受託、機器使用、技術アドバイザーの派遣、評価法提供など、各分野の専門職員が相談に応じ、解決に向けて支援メニューを提案している。

事業化支援【新製品・サービスの創出】総合的な一貫支援は企業開発段階に応じ、技術・デザイン・知的財産・経営・金融等の総合支援を行い、成長分野への参入支援においてはデジタル技術に関する開発・検証環境の提供や、エネルギー、ライフサイエンス等の成長産業への参入支援も行う。

人材育成【イノベーション人材の育成を支援】ものづくり中核人材育成、科学技術理解増進、研究人材育成など次世代を担う創造的人材を育むための座学と実験など子どもたちに向けた体験イベントも開催。

連携交流【ハブ機能の強化】共創によるイノベーション創出の機会を企業や大学等に提供する連携機会創出や情報や保存するデータ等の共有、人的ネットワーク等の強化を行う技術情報オンライン提供など。

所　感

静岡県が運営する公設試験研究機関としては、静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センターがある。この施設は特に光・電子技術やレーザー加工、材料評価などの分野で、地元のものづくり企業を強力にバックアップをしており、神奈川県立産業技術総合研究所と同様に、研究開発や依頼試験や技術の相談等の業務を通じて、この浜松のものづくり産業の課題解決に向けた支援を行っている。また本市には光技術の世界的リーダーである浜松ホトニクス株式会社が光技術の産業応用を加速化させるために設立した浜松ホトニクス産業開発研究センターがある。単なる基礎研究だけでなく、開発した技術をどのように実用化すればビジネスに繋げるかに特化している。また本市が推進している『地域産業の活性化』プロジェクトにおいても、技術提供や共同研究の受け皿になっている。

本市の強みであるものづくり産業をさらに発展させるべく、市内の中小企業

が県の支援センターなどをより安価に利用できる支援体制や、県の施設ではあるが、本市の地元企業に必要な設備の導入などの要望もあげ、新たな開発ができるような環境づくりにも取り組むべきである。また広い分野の研究が可能になることで神奈川県立産業技術総合研究所のように新たな分野の支援事業が増設されるなど、浜松のものづくり産業のさらなる発展に期待する

視察日	令和8年2月17日（火）
視察地	東伊豆町役場
調査項目	・グリーンスローモビリティー事業・低速電気自動車を利用した公共サービスについて

視察の顛末

東伊豆町公共交通の将来像として『コンパクト＆ネットワークで暮らしをつなぐまちの足』として現在グリーンスローモビリティーの実証実験が行われている。実証実験の課題としては、電車で訪れる観光客の移動手段が不足していることと、観光客の周遊性も低迷している。また高齢者が外出困難になってきており、特に坂道が多い東伊豆町は移動も大変である。幅の狭い道路が多く、大型車の運行も困難であり、タクシーを利用するにも運転手不足により利用したい時間に利用できない。今回の実証実験でのメリットとしては、グリーンスローモビリティーはゆったり移動することで、観光地の新たな魅力を発見でき、予約なしで気軽に利用ができる事で観光客の周遊性の向上をあげられる。また開放感ある車輌により、地域住民や観光客との距離が近いことによる交流の促進や、外出・交流機会の増加により、高齢者の心身の健康維持も期待できる。東伊豆の魅力を伝え、まちを応援するファンを増やし、関係人口の増加と、ふるさと納税の拡大にもつなげる。

実証実験の運行期間としてはつるし雛祭りと桜の季節に合わせて、1月17日から3月8日の51日間行い、運行エリアとしては稲取地区内を約2kmで1周13か所の停留所を設置する。1時間に1本の運行を想定。運転手あわせて6人乗りの電動カート。財源としては事業費の3分の2は県の「ふじのくにフロンティア地域循環共生圏形成事業費補助金」である。

所　感

公共交通の課題は全国的に特に地方では重大な課題となっている。本市においても公共バスの利用者減によるバス路線の廃止など、今後も様々な課題がさらに増えてくると考える。また人口減少や、高齢化は全国的な課題でもあるが、東伊豆町では現実を受け入れ新たな形で取り組みを進めている。岩井町長は、「人口が半分になっても、町の活力は半分にさせない」という発想のもと、町民が今より２倍動ける、また町民が動きたくなる移動しやすい仕組みが整えば、人口が減っても地域の活動量は維持でき、活発な町になる可能性があると述べられた。

地域に活力を取り戻すためには人が動くことが大切であると改めて感じた。本市では遠鉄バスの路線が多く巡っているが、遠鉄電車やJR電車と接続がされれば利用者の増加も見込めるのではないかなど、移動手段のあり方を民間と行政がしっかりと連携し市民が利用しやすい地域交通を目指す。またライドシェアについては庄内半島を中心にすでに行っているが、メリットや課題についてもしっかりと共有すべきである。浜松は広大なエリアを有するため、様々な各地域の課題と向き合いながら市民が安心安全に暮らせる街であり続けるために課題解決に向けて早急に取り組むべきである。

令和８年２月１７日
自由民主党浜松

視察報告書



浜松市議会議員
鈴木 裕之

日時：2026年2月16日（月）14：00～15：00
訪問先：神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）
目的：浜松市は全国有数の面積と製造業集積を有する「ものづくりのまち」であり、今後の成長戦略、とりわけスタートアップ支援や中小企業支援の高度化を検討するため、先進的な支援体制を構築しているKISTECを視察し、今後の施策に活かす。

【概要】
KISTECは2017年に地方独立行政法人化され、神奈川県の中小企業支援の中核機関として活動している。前身機関からの長い歴史を持ち、研究機能の強い「神奈川科学技術アカデミー」と公設試験研究機関が統合された、日本初の一体型総合支援機関である。
年間約6,500件以上の技術相談、約5万件を超える試験・分析を実施しており、県内企業のみならず首都圏を中心とした県外企業からの相談も多い。収入は県交付金（約75%）と事業収入（約25%）で構成されているが、今後は自主財源の拡大による経営強化を目指している。

【主な取り組み】
研究分野は、県の総合計画に基づき、デジタル化・AI等の先端技術、カーボンニュートラルなど持続可能社会対応、健康・医療関連分野を重点領域としている。基礎研究から事業化支援までを一体的に行う「総合支援体制」が特徴。
（1）中小企業支援
- 試験・分析・技術相談（年間約5万8千件の試験実績）
- AI・デジタル技術活用支援
- 装置導入や開発加速に向けた横断的支援
- 単なる測定業務にとどまらず、原因分析や設計へのフィードバックまで踏み込む「ソリューション型支援」へ転換を図っている。

（2）研究開発強化
- 公募型研究制度（段階審査制）によりシーズ研究を推進
- ベンチャー創出実績あり
- 研究人材育成のため、内部競争制度や外部資金獲得訓練を実施
- 特に、研究費を自ら獲得する力の強化を重視している。

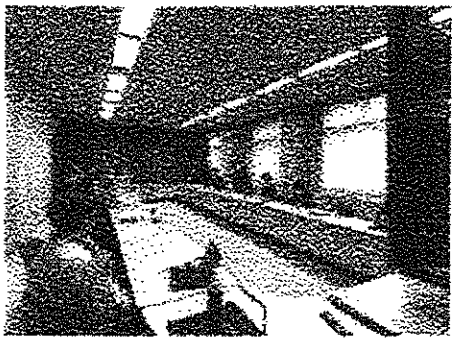
（3）フラウンホーファーモデルの参考
ドイツのフラウンホーファー研究機構を参考に、産業界との共同研究による自立的経営モデルを志向。基礎研究から実用化までをつなぐ「橋渡し機能」の強化を進めている。ステージゲート方式による研究支援や、外部資金獲得能力の向上、人材育成（研究費獲得トレーニング等）にも力を入れている点が特徴である。「基礎研究とイノベーションギャップ」を埋める役割を目指している。

（4）広域連携
他都道府県の公設試験研究機関や国の研究機関との情報共有、産総研等との連携体制も整備されている。他県案件の対応困難案件の相互紹介や技術研修の相互受け入れなど、広域的なネットワークを活用している。

【所感】

神奈川県立産業技術総合研究所は、研究機能と中小企業支援機能を一体化させた先進的な体制を構築しており、単なる試験機関にとどまらず、実用化・事業化までを見据えた「橋渡し機関」としての役割を強く感じた。特に、自主財源の拡大や研究人材の育成に本気で取り組んでいる姿勢は印象的であり、急速に変化するAI・デジタル分野への対応にも危機感と戦略性が見られた。地域産業を支える公設試験研究機関の在り方や外部資金の獲得、人材育成、成果重視の研究制度など、経営的視点を取り入れた運営は大いに参考となった。本市においても、既存の技術支援機関との役割整理を行いながら、中小企業の高度化支援やデジタルAI活用支援、産学官連携の強化、技術人材育成といった観点で、持続可能な支援体制を構築していく必要性を感じた。









日時：2026年2月17日（火）9：00～11：00
訪問先：東伊豆町
目的：東伊豆町が現在実証実験を実施しているグリーンスローモビリティ（低速電気自動車）を活用した公共交通サービスを視察し、本市の地域公共交通の参考にするため。

【概要】

1．地域概要と課題

東伊豆町は伊豆半島東海岸の中央に位置し、海と山の自然資源や観光資源に恵まれた町である。一方で、人口は昭和50年の約17,300人から令和2年には約11,400人へ減少し、少子高齢化が進行している。

交通面では、伊豆急行線と国道135号が海岸沿いを走るが、地震時の寸断リスクを抱えている。また、タクシー不足（昼5～6台、夜1～2台）、バス運転手の高齢化、坂道や狭隘道路の多さなど、住民・観光客双方の移動課題が顕在化している。

2．事業の概要

「コンパクト＋ネットワーク型交通」を将来像に掲げ、鉄道を基軸にライドシェア「ノッカル」とグリーンスローモビリティ（以下グリスロ）を組み合わせた移動体系を構築中。

◉稲取地区（約2km、13停留所）でのグリスロ実証運行

- 運行期間：1月～3月8日（観光イベント期間に合わせ実施）
- 車両：6人乗り電動カート1台
- 料金：1日乗り放題500円（QR決済またはプリペイドカード）
- 事業費：約140万円（県補助2/3、町負担1/3）
- 自動運転も検討したが、2週間で約3,000万円の増額となるため断念。

3．導入目的と期待効果

①観光振興

- 駅からの二次交通不足の解消
- ゆっくり（時速20km未満）走行することで景観・街並みを体感
- 住民と観光客の交流促進
- ファンづくりやふるさと納税拡大への波及

②住民福祉向上

- 高齢者の外出機会増加
- 会話・交流の促進（研究では約9割が車内で会話）
- 健康増進・医療費抑制への期待

4．実績と課題

- 1日平均利用：約9.4人（最大26人、最少2人）
- 利用は観光客が中心
- 1日券より1回券利用が多い
- 平日利用の低迷が課題
- 6人定員では団体客を取りこぼすケースあり
- 住民利用拡大のため、無料体験や細街路への乗り入れ拡充を検討中。

5．今後の展望

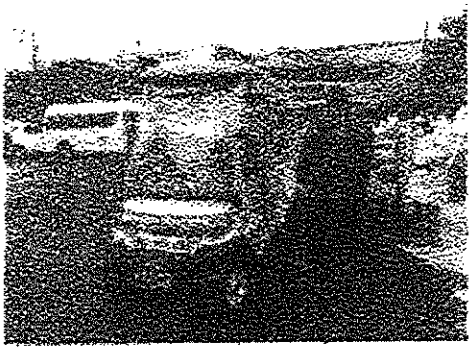
令和8年度に再度実証実験を行い、2027年度の本格導入を目指す。財政的自立は難しく、国の交付金や集落支援員制度の活用、広告収入導入なども検討している。最終目標は観光経済の活性化、住民の外出促進と健康増進、町のウェルビーイング向上である。

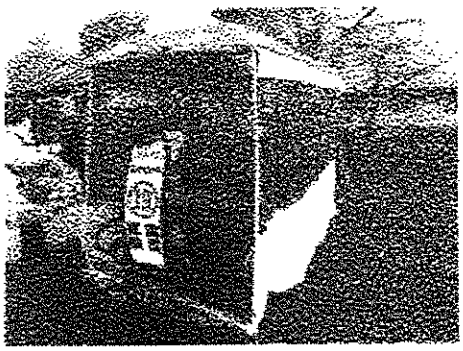
【所感】

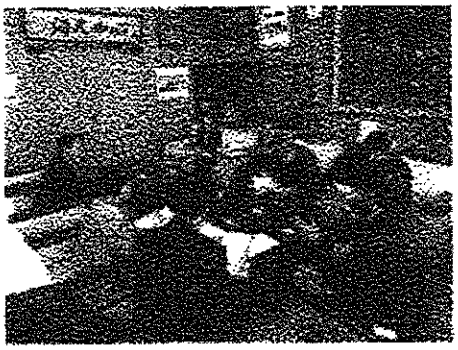
東伊豆町のグリーンスローモビリティ事業は、単なる移動手段の確保にとどまらず、「観光振興」と「高齢者の外出支援」を同時に目指す意欲的な取り組みであると感じた。特に、ゆっくり走る特性を“弱み”ではなく“地域の魅力体験”という強みに転換している点は評価できる。

一方で、平日の住民利用拡大や財源確保など持続性の課題は大きい。今後は、福祉施策や地域経済施策とより一体化させ、地域全体で支える仕組みづくりが重要であると考える。

本事業は、観光振興と高齢者福祉という二つの目的を併せ持つ地域交通モデルである。収益化は困難であるものの、地域の交流促進や健康増進といった「社会的価値」を重視した取り組みであり、今後は住民利用拡大と持続可能な財源確保が鍵となるだろう。本市の地域交通政策の参考としたい。







（様式11）

令和　8　年　2　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

報　告　書

出張年月日	令和8年2月16日（月）～17日(火)
出　張　先	①　神奈川県立産業技術総合研究所　②グリーンスローモビリティ（東伊豆町）
出張の内容	①　技術相談・試験分析・スタートアップ支援などの産業支援の仕組みを調査し、本市の産業振興施策の参考とする。 ②　低速電気自動車を活用した公共交通サービスの取組を調査し、地域交通の確保や移動手段の多様化に向けた本市の施策の参考とするため。
出　張　者	平野岳子

（出張の顛末・所感）

①　神奈川県立産業技術総合研究所

KISTECは、試験分析、技術相談、研究開発支援、スタートアップ支援などを行う公設試験研究機関であり、中小企業の技術力向上や製品化支援に取り組んでいる。企業ニーズに応じた伴走型支援を行い、研究開発から事業化まで幅広く支援している点が特徴的であった。静岡県工業技術研究所や本市の産業支援施策とも共通点が多く、特に技術相談や試験分析、スタートアップ支援の充実は大変参考となった。

今後、県工業技術研究所との連携をさらに深めることで、企業が利用しやすい支援メニューの拡充や研究開発から事業化まで一体的に支援できる体制強化につながるものと感じた。

②　グリーンスローモビリティ（東伊豆町）

東伊豆町が導入している低速電気自動車（グリーンスローモビリティ）を活用した公共交通サービスについて説明を受け、試乗もさせていただいた。走行時の安全性や乗り心地、地域特性に応じたルート設定などを体験。高齢者の移動支援に加え、観光地における回遊性向上にも活用されており、地域課題に対応した柔軟な交通施策として取り組まれていた。今

今後の本市における移動手段として大変参考になった。特に、町長自ら必要性を感じ提案して実行していたことにトップランナーとしての力強さが滲み出ていたと感じる。本市においても、中山間地域や観光地における移動手段は重要な課題であり、既存交通との組み合わせを含め、低速電気自動車を活用した地域交通の可能性について検討していく必要性を感じた。